

会 報 第7号
「今井研卒研究生・有志の会」 2005.9.30

目 次

	頁
1. 最近思うこと：三題 今井哲二	2
. 新聞暢一さんを偲ぶ	
. 菅田栄治先生を想う	
. 老いを生きる	
2. 会報第6号の感想文から	3
3. 会員へのアンケートにみる 懇親会等 に対する皆様からの返信内容	5
4. 第四回 今井研卒研究生・有志の会 懇親会開会のご挨拶	8
5. スピーチ「一期一会」について 鈴木威一	9
6. 懇親会決定事項	12
7. 第四回懇親会出席者からの一言及び集合写真	13
8. 「青色LED」関係掲載文の紹介 今井哲二	16
1) 朝日新聞「私の視点」	
2) NTT OB 機関誌	
9. 大学発ベンチャーには夢がある 塚本一義	18
内閣府政府広報誌掲載文の紹介	
10. 私の原点にあるもの(その3) 坪井孝光	19

1. 最近想うこと：三題

今井哲二

・ 新関暢一さんを偲ぶ

戦後、財界の重鎮として三井物産の総帥“新関八州太郎”の名は広く日本中に知れ渡っていた。その長男、新関暢一さんが、東大からMITのDr.コースを経て、当時の電電公社電気通信研究所（通称：通研）に奉職された。彼は東大理の鉱物学教室出身で、MITでは世界的な結晶解析学者の許で結晶解析の道を探求し、Dr.の称号を得た。

昭和30年、通研に入所した彼が最初に（上司からのアドバイスにより）取り組んだ仕事が、私との共同による『酸化物陰極中間層のX線解析による研究』であった。当時、トランジスタの性能・信頼度は共に全く幼稚なもので、海底同軸ケーブル電話回線用中継器を対象にした超長寿命増幅素子としては真空管しかなかった。この真空管を実現するための超長寿命陰極実用化のための研究が上記共同研究であった。

彼は後日、電電公社の抱える4つの研究所（各研究所所員数は各々1,500人前後）の一つの所長にまで昇りつめたが、通研でのこの最初の仕事を彼は高く評価し、通研での研究者として一日の長のあった私に、彼は終生変わらぬ敬意と感謝の念を持ち続けた。

私とほぼ同年輩であった彼は、昨年8月、79歳で急逝した。今年8月、彼の一周忌に当り、一高、東大（鉱物）通研、東芝（通研後の職場）などの友人達に声をかけ、奥様が「新関暢一を偲ぶ会」を催された。この時配布された資料が私の書いた追悼文（A4：4ページ）であった。彼は後年、名訳著：『創造的発見と偶然 - 科学におけるセレンディピティー』（G.シャピロ著）を世に送った他は、庭の芝の手入れをしたり、草花を愛で楽しむ静かな日々を過ごした。同輩の知己を失った痛手は今も胸に重くのしかかっている。

・ 菅田栄治先生を想う

上述の『酸化物陰極中間層のX線解析による研究』を高く評価された第三者として、関西地区のエレクトロニクス界の大御所、菅田栄治先生がおられる。菅田先生は大阪大学で電子顕微鏡の世界的な仕事をなさると共に、ビームテクノロジーの権威者として、昭和天皇に御前講義をなさるなど、その業績は枚挙に暇がない。先生は、阪大工学部長の後、大阪電通大学長・同大学理事長などを歴任され、松下幸之助、佐々木正（元シャープ副社長、現在小野雅敏氏の会社の親分でもある）らとも親交が深かった。菅田先生は、80歳でご他界されたが、その約一ヶ月前に頂いたお手紙では、先生が主催された国際ハイブリッドIC会議を顧みて夢多き研究への情熱を披瀝されていた。しかし、その最後では“私のような老後がよいか悠々たる生活がよいか判らなくなりました。無理でない生活を老後には持ちたいと考えていましたが。”と結んであった。

先生は、大阪電通大の刷新とレベルアップに腐心される一方で、日本におけるハイブリッドICの研究体制を確立され、その国際的レベルアップにも大きく尽力された。熱心なクリスチャンでもあった先生は、上のお手紙の中で“与えられた仕事は、もう充分やったではないか？もう少しゆっくりと他にも目を向け、ゆったりとした気持ちで社会貢献をしたいものだ”という本音を私に暗示しておられるように思えてならない（私は菅田先生を審査査査とし、昭和35年、阪大より学位を受けた）。傘寿にならんとする今、私は改めて敬仰措くあたわざる菅田先生のそうした心情を想い浮かべるのである。

・ 老いを生きる

本会報の前号でも触れたが、日野原重明氏は75歳以上を新老人と称し高齢化が加速される日本の社会においては、“新老人”こそが、もう一働きをし日本の社会の活性化に貢献すべきことを強調されている。個人差の大きい高齢期においては、上記佐々木正さんのように90歳を過ぎてもなお矍鑠として現役である方も少なくない。諸条件に恵まれていれば、そうした生き方も確かに一つの理想である。しかし、平均的に言えば、そうはいかないのが現実である。そして、より若い人たちに働く場を与え、そのバックアップに貢献することも、強ち“消極的な生き方”とは言えないようにも思える。

そんな事を考えている折りしも、内閣府政府広報誌“「Cabi ネット」 79 2005”が塚本一義さんから送られてきた。大学も独立行政法人化し、数多くのベンチャーが日本でも誕生するようになった。国内1,112社（平成16年度末）の大学発ベンチャーから経済産業省が推薦し、そのうち3社が政府広報室企画の「大学発ベ

ンチャー特集号」に選ばれたものという。塚本さんの(株)VRスポーツが、この広報誌の表紙を飾り、本文の中でも三大学中トップに掲載・紹介されている。塚本さんの了承を得て、早速本文をこの会報に転載させて頂いた。

米国に多くの前例をみるように、雨後の筍の如くベンチャーが興り、そしてその多くは消えていく。僅かな資本と人容から興すベンチャーは特に大学発では極めて前途が険しい。それでも外国では、ビジネス エンジェルとしてベンチャーを支援する善意もまた溢れているようである。(株)VRスポーツの社是(創設理念)は、“社会にとって存在価値がある企業であること” および “先進的技術で社会貢献する企業であること” の二点である。これに共感を覚える方々から多くの支援・支持が得られることを切に望んでいる。“お金”は無ければ困るが、必要最低限あれば充分でもある。多くの方々から受けてきた有形・無形の恩に報いるため、“貧者の一灯”としてこのようなかたちで社会貢献の一翼を担うことも、“老いを生きる”一つの道であるかも知れない。

(本会報前号巻頭言において、本号で「国際物理年」に関連した記述に触れたい旨のべたが、編集上の都合で実現できなかった。ここにお詫びし、何時かの折に譲りたい)

2. 会報第6号の感想文から

会報第6号に関する会員からの感想文が寄せられましたので、原文のまま掲載いたします。

1) 今井先生より

先週3月9日には、まだ最終的な手直しの段階でした。それまで、何回原稿の添削、見直しを行ったことでしょう。原稿OK、となった10日後の本日、「会報第6号」と「新妻英雄 追悼特集」を入手し、感無量です。スピーディーな印刷製本処理能力に感服すると共に、出来上がりの素晴らしさに毎度ながら感嘆するばかりです。

今回は、26ページというボリュームのある特集号となりました。特集記事を執筆して頂いた諸兄にも改めて、感謝と敬意の念を表します。新妻さんもさぞ喜んで呉れているものと思います。

坪井さん、そして皆さん、有難う。 今井 哲二 2005.3.19

2) 鈴木威一様より

会報第6号を受け取りました。素晴らしい出来ですね。写真も綺麗で、新妻さんの絵画が小さくはありますが、とても綺麗で、新妻さんの感性の感じられるレイアウト、色合いであり、その前のページまでに、研究者としての新妻さんを紹介するという素晴らしい企画です。立派な特集になっており、あの世で新妻さんも喜んで居られることでしょう。心よりご冥福をお祈りいたします。

今井先生と坪井さんの、ご努力にただ感心すると共に、立派な会報を作っていただいたお礼を申し上げたいと思います。

今回の会報では、私が、つまらぬ事を長々述べていて、貴重な皆様の紙面を潰して申し訳ありません。しかしそれを除いては、興味のある物ばかりで、一気に全部読んでしまいました。心の通った26ページの読み応えのある、立派な会報でした。有難う御座いました。

ただ心配は今井先生が、眼底出血で、体調を崩されている点です。どうぞあまりご無理なさいませぬようお願いいたします。次回の卒研生の会を楽しみにしております。

Takeichi Suzuki, CEO, Executive Consulting Co. Ltd. Tokyo, 153-0052, Japan 2005.3.20

3) 高井謙次様より

会報第6号お送りいただきありがとうございました。新妻さんのご逝去を知り大変驚きました。まだ亡くなられるには早すぎる年齢で大変残念な気が致します。今井研でお世話になった時の直接の指導ご担当では無かったので、当時余りお話しする機会もなかったのですが、印象としては比較的寡黙で筋の通ったまじめな研究者ということでした。今回、新妻さんの人となりを披露して頂き、また新しい側面を知ることができました。大変絵がお上手でプロとして活躍されていたことを知りその幅の広さに改めて感嘆致しました。ご冥福をお祈り申し上げます。

今回の会報もまた素晴らしい出来栄で、坪井さんのご尽力に頭が下がります。会報発行当初パソコンが余り得意でなかったと言うお話ですが、これだけのものを仕上げるには可成のスキルが必要で、情熱と使命感のなせる業であろうと思います。改めて今井先生と坪井さんに感謝申し上げます。 高井謙次 2005.3.20

4) 多村卓様より

坪井様 CC:今井先生

心待ちしていた会報(第6号)いただきました。有難う御座いました。坪井様には、毎号此処まで仕上げられる編集のご苦労お察し申し上げます。

さて、今回はボリュームがあるなと思って開きましたら悲しいことに新妻様のご逝去の報、実は私始めて知りました。

本号に追悼文を寄稿された同期の伊藤恭弘君が直接の指導を受けておられたことよく覚えております。新妻様は今井研究室では、電子応用技術面について抜群の研究者であると尊敬申し上げておりました。当時、学生の私にとって特に印象深かったのは、新妻様が工夫されたエサキ・ダイオードのI-V特性の順方向の負性抵抗領域をシンクロスコープの画面上に描き出させる(本来、この領域では素子が「発振」してしまっただけで画面に現われないのですが)直視可能な測定用の治具回路を考案されていたことでした。これが見事に昭和39年の電気通信学会誌(現在の「電子情報通信学会誌」)「エサキダイオード特集」表紙に燦然と掲載されているわけですね(本会報のP6/26)。

電子物性を研究する研究室にあってエレクトロニクス技術に長じた研究者は各種物性実験を進める上で不可欠な存在です。私事で恐縮ですが、只今お世話になっている大市大・物質分子系専攻の研究室でも実験のキーマンはやはり電子回路の設計経験者です。今更ながら、新妻様が今井研究室に残された功績の大きさを再認識させられます。故人のご冥福を心よりお祈り致します。合掌。

今井先生も本会報の巻頭で触れられたように、2005年はアインシュタイン・イヤー。当地でも「アインシュタインイヤー・イン・大阪」と銘打った「相対性理論」に関連した一般向けの講演会が先週関西の主要大学協賛で開かれました。大市大からは石原秀樹教授の「膜宇宙-最近の宇宙モデル」と題して最先端の宇宙論を平易に噛み砕いたご講話もありました。時々門外漢で理論物理専攻の院生のための講義を興味に任せて拝聴させていただくのですが快くお許しいただき、解からないまでもただただ感動しきりといふ所です。機会がありましたら、私の大学院での様子などまた本会誌にご報告できればと考えております。

取り急ぎ会報第6号の送付御礼申し上げます。お元気で。 多村 卓 2005.3.23

今井先生より追加コメント

多村 卓様

「会報第6号」入手の挨拶メールを戴き、有難うございます。

多村さんが、新妻君の「電子応用技術者」としての優れた能力を、具体的にここまでご存知でしたら、「追悼特集」に是非執筆して頂きたかった、と非常に悔やまれます。

エサキダイオードの負性抵抗領域を直視できるように工夫した彼の測定法は、当時世界的にも先駆的な仕事でした。

その他にも、直列インダクタンスをマイクロ波を用いて測定する方法を確立するなど、日本で発明された「エサキダイオード」に対する「測定法」が、新妻君等を中心として世界に先駆けて日本で確立された意義はきわめて大きいと信じます。

この本質を知って、「研究成果を評価する」ことが難しい中で、卒研当時にそのことをなし得た貴兄に、改めて敬意を表します。

彼に代わって、私からも改めて御礼を申し述べます。 今井 哲二 2005.3.23

5) 狩野哲光様より

今井研幹事 坪井孝光様 毎度のことながら尊いご尽力に感謝いたします。

会報3月23日開封いたしました。新妻様とはお目にかかる機会がありませんでしたが、電気通信学会の先達ご逝去の報に謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

自分の近況を勝手に書いて恐縮ですが、拙宅では女房が定期的に週に2回仕事にでている上、買ってやった電動自転車の便利さに気がついたか(小生は愛用の250ccバイクを無理やり止めさせられた!)、最近は各種

ボランティア活動にも足を伸ばし始めました。

その結果、小生は自分の食事を自分でマネージメントする必要が出てきて、改めて「一日に3度やらなければならないこと」はそうはなく、男側も摂食方法に習熟することは、老人夫婦の生活にかなり重要なことではないかと考えています。その効用についてはいずれ又。 2005.3.25 狩野哲光

6) 帯谷達郎様より

坪井様、ご連絡遅れ申し訳ありません。会報第6号が届きました。有難うございました。素晴らしい出来栄です。号を重ねる毎に内容が充実し、投稿される方が増えている事はとても素晴らしいと感じました。

新妻様のご遺影に接し、感無量でした。改めて、ご冥福をお祈り致します。

坪井様の完成までの大変なご努力に深謝いたします。まずはご連絡まで。 帯谷 2005.3.27

7) 小野雅敏様より

今井哲二先生、坪井孝光様

懇親会の準備を着々と進めていただき、誠にありがとうございます。皆様に、またお会いできることを楽しみにしております。

会誌6号を拝受いたしました。その仕上げの美しさと中身の濃さには改め感服いたしました。今井先生と坪井様の緻密でお心のこもったご尽力に心から感謝いたします。

追悼特集では、新妻様が研究者だけではなく広く深い活動をなさっていたことに感銘を受けました。そうした奥深いものが、当時の私達への鋭くも暖かい眼差しの中にあっただことが、ようやく理解できたように思います。心からご冥福をお祈りいたします。

また、会員の皆様の真摯で多様な歩みと、これからの生き方についてのお考えを伺うことができる文章は何度も読み返し、我が身を反省し、これからの生活の励みにしております。

今井先生と島田様の文章から受ける暖かさには、卒研時代がいかに恵まれていたか、その後の人生にとって大きな助けになっていたかをしみじみと実感しました。次回の会合と会誌に期待しております。

たまたま、つくばの自宅へ行く間隔が開いてしまい、会報6号を拝読するのがすっかり遅くなってしまいました。ご容赦下さい。 小野 雅敏 2005.4.12

8) 塚本一義様より

今井哲二先生 Cc:坪井幹事

下記メールにて、わざわざ(何時もは、塚本さんも)とご配慮頂きありがとうございます。ご承知のように、大学は3月は学部学生と大学院生の卒業研究、修了研究の指導、発表審査会、卒業・修了式と(株)VRスポーツの4月からの全国販売に向け、2社と技術提携、販売提携などの契約、営業販売活動などが重なり、気にはなっていました。結果として山のような書類の下になり、坪井幹事の労へ感謝の機会を失し失礼しました。

言い訳がましいメールとなりましたがご容赦下さい。 塚本一義 2005.3.29

3. 会員へのアンケートにみる 懇親会等 に対する皆様からの返信内容

高井謙次様より

毎回、幹事ご苦勞様です。お問い合わせの件についてご返事申し上げます。

1. 7月22日(金)は今のところ大丈夫ですが、例年7月に予定されていますかつて長年勤務していた会社の同期会の期日が決まっていますので不確定要素はございます。

2. アンケートへのご返事 a)、b)、c)とも希望いたします。ただ皆様からのアンケートの結果や継続会員数により今後の活動に影響がでると考えられると思います。以上よろしくお祈り申し上げます。

鈴木高志様より

坪井様、度々御連絡頂き恐縮しております。今井先生には大変お世話になり、感謝しておりますが、現状は先生の分野とはかけ離れた分野で仕事をしてきたので、みなさまとは話の波長もあわないかと思います。

大変失礼とは思いますがアンケートの回答は2- 2- 2とさせていただきます。

後藤信男様より

いつもご連絡頂き有難うございます。懇親会出席の件ですが、なかなか都合がつかず欠席しておりますが、今後も難しそうなので、会員としての登録は削除していただきたくよろしくお願いいたします。
アンケートの確認は2-2-2でお願いいたします。

狩野哲光様より

懇親会出欠ご連絡：人前での飲食が不自由なので欠席いたします。 アンケートご回答 2 2 2

帯谷達郎様より

今井研卒研生の会 代表幹事坪井様 今井研卒研生懇親会のご案内有難うございます。また、会の運営、企画、等ご苦労様です。改めて、御礼申し上げます。以下にアンケートの回答をさせていただきます。

(1) 懇親会出席の有無

7月15日から7月23日にかけて米国ニュージャージー在住の長女夫婦をたずねる予定になっています。既に、航空券、等予約しておりますので、申し訳ありませんが、今回も出席叶いません。
今井先生他会員各位にくれぐれもよろしくお伝えください。

[近況]テクニカルライターとして第二の人生を歩み始め、早、1年余りが過ぎてしまいました。最近、特に、歳月の過ぎ去る速さに戸惑いながら、休日には孫の世話やウォーキングをし、また、最近購入したデジカメで風景や庭の花等を撮りまくっています。

職場では平均年齢を独り押し上げている感がありますが、若い人との共同作業は楽しく、精神的には若返るような気がしています。ボケ防止には有効のようです。

最近、"FOREIGN AFFAIRS"という、2ヶ月毎に発行される外交問題専門誌を購読しています。すべて読み通しているわけではないのですが、はまると結構brain trainingになるようです。日本のメディアでは伝わらない、外交問題や国際紛争の背景などが生々しく記載されています。

(2) アンケートの確認

- a) 今後も会員として登録を希望する(1) b) 会報の郵送を今後も希望する(1)
c) 懇親会の案内を希望しない(2)

開催日は出勤日にあたり、また、交通時間も2時間以上かかりますので、会の開催に間に合いません。申し訳ありませんが、開催の案内は辞退させていただきます。1-1-2でお願い致します。

なお、会の改称の件につきましては、お任せ致します。以上、よろしくお願い致します。帯谷達郎

倉本敏雄様より

懇親会への出欠 メール有難うございました。現在、仕事は完全に引退し、体調の良いときは趣味(洋らん栽培)で過ごしています。体調は今ひとつ不安定で、優れないときは軽いめまいが起きます。7月下旬の体調については、今から予測できず、懇親会への出欠を決めかねています。ご迷惑をかけてはいけませんので一応、欠席とさせていただきます。

・アンケート 1-1-1

会員制にするのは、良いことだと思います。会報の費用も会費として一定額を毎年(または何年かまとめて)徴収すればよいと思います。任意の寄付というのは、あまり良くありません。

・要望

懇親会へ欠席をしていて、勝手な要望は出来ないのですが、あえて希望を書いておきます。

現在、懇親会開催時間が16:00~19:00となっていますが、これは都内に勤務する現役勤務者のことを考えて、出席しやすいように決められたものだと思います。都内に居住している人にとっては都合がよいのですが、遠隔地から出席する人にとっては、懇親会后、宿泊が必須となってしまいます。

もし、開催時間が13:00~16:00くらいになれば、遠隔地からでも日帰りが可能となります。

この時間帯で、都内の勤務者が出席できるためには、土曜日・日曜日の休日を選ぶ必要があるのではないかと思います。一度、何かの機会に検討をしてみてください。まずはお願いまで。倉本 敏雄

鈴木威一様より

坪井様 ご苦労さまです。1- 1- 1で、よろしくお願ひします。お目にかかれるのを、楽しみにしております。先生によろしくお伝えください。なお、22日の懇親会出席させて頂きたく、よろしくお願ひします。近況については、今は時間が有りませんので、後で送らせて頂きます(5/中旬)。

お約束した近況を、すこし書いてみます(5/下旬)。

会社は、徐々にですが動いてきました。メインの経営コンサルタントは、アメリカ人、イギリス人、タイ人が社長をやっている会社と契約して、仕事をしています。日本の会社は、どういう訳か、やっておりません。プロジェクトベースの件では、何件か、日本の会社の案件をやっております。今年から、講演を受ける事にしたのですが、思いもかけず、大手電気会社のグループ企業全ての役員研修の1部を依頼され、四苦八苦しなから、グローバル経営について、人前でお話をさせて頂いております。中小企業の社長さん向けの講習なども、やって見て、自分の方も勉強になります。

後は知的財産権の件です。これも、日本と海外をどう結んだら良いか、調査勉強しながら、進めています。その他にも、雑多な案件が入ってき、忙しく過ごしております。個人的にはボランティアではじめた、異業種交換の会も順調で、7月には3回目を行います。

子供は4人居りますが、誰も結婚せず、孫の話しに入れないのが、残念ですが、ありがたく、感謝して、生活しております。

坪井さんお勧めの、コエンザイムQ10?を愛用しています。確かに良い様な気がします。

何とか元気にしております。

先生にお目にかかるのが、楽しみです。雑然とした、近況になってしまいましたが、お赦してください。

中村治時様より

いつも大変お世話になりまして、ありがとう存じます。

私のような不良メンバーにも、親切にご案内を頂いて、感謝しております。又、会報も、いつも内容が豊富で、感心しております。ところが、次回の会合も、既に先約があり、上京できません。環境に関連した仕事(ボランティアのようなものですが)を少々しておりまして、多忙です。私の実力以上にIT化が進んで、追いつかれ、対応に苦慮します。

今回の2つ目のアンケートは、私のような不良メンバーを対象とされていると思います。それで、これ以上ご迷惑をおかけすることも問題ですので、抹消してください。222で結構です。

今井さんは今でも、私にとって最も尊敬する方の一人ですし、坪井さんを初め、沢山の方を存じ上げて、懐かしい方も多いのですが、物理的に叶いません。

4- 5年たってから、参加させてくださいと願ひするかもしれませんが、122はダメですよ[OKです - 坪井]。すいません。お許してください。中村治時

塚本一義様より

お世話になります。7月22日は私が主導するプロジェクト会議の開催が既に決まっております、残念ですが欠席とさせていただきます。今井先生、会員の皆様へよろしくお伝え下さい。アンケートは1- 1- 1で願ひ致します。

近況報告 学部学生の教育指導、大学院生の研究指導、会社経営、四国4県の大学発ベンチャーの育成などに取り組んでいます。

会社はNHK全国放送や新聞、雑誌でも紹介され、知名度は高いのですが、それに見合った実績はこれからです。日本初のITヘルスケアシステムを実用化した企業として、介護予防ビジネスのリーディングカンパニーを目指して始動開始したところです。塚本一義

安原信彦様より

ご連絡ありがとうございます。いつもきめ細かなご配慮ありがとうございます。

今回の会報も細かい所まで丁寧かつ誠実なみなさまのお心が出ている素晴らしいものです。何もお手伝いできずいつも恐縮のきわみです。

いったんは退職後同じところで同じ立場で仕事を続けていますが、去年6月より95歳になる父の24時間在宅介護を妻と二人で担い始め少々二人とも息切れの状況ですが出来るだけのことはしておきたい心境ですので

妻の支援のためにリタイアも余儀なくされそうです。

このような状況なので、今回はとても残念ですが欠席とさせていただきます。いつ頃開放されるか分りませんが、アンケートについても ぜひ1- 1- 1でよろしくお願ひいたします。この件もきっと色々ご苦労されているゆえのリビューと申し訳なく思っています。よろしくお願ひいたします。 安原信彦

齋藤哲也様より

何時もご丁寧な案内を発信していただき感服しております。

既に何人かの返信と葉書での返信内容も確認できました。何人かの会員退会者もいるようですが仕方ないことでしょうか。7月22日の懇親会は欠席とさせていただきます。今後の会員の件は1, 1, 1でお願いします。

久しぶりに雨がふり、今朝6時に起きてサツマイモの苗を植えました。サラリーマン時代は雨は嬉しくなかったのですが、少しばかりの畑でも雨は時々大歓迎です。

梅原弘様より

毎回ご案内ありがとうございます。幹事の皆様方にはご苦労お掛けして申し訳なく思っています。

定年を迎えましたが、引き続き同じ会社で同じ仕事を続けています。体調が思わしく無く、仕事の方は徐々に減らして行きたいと考えていますが、年金支給が繰り下がっている現在、仕事も続けなくてはならないなど、なかなか思うようには行かない状況です。7月22日も勤務の状況から欠席させていただきます。皆様によるしくお伝えください。アンケートについて1- 1- 1よろしくお願ひいたします。 梅原弘

小野沢賢三様より

卒研究生の会や会報では、いつもお世話になりながら、懇親会にもなかなか参加できず、また会報のお礼もせずに済みませんでした。大変心苦しく思っております。

ところで、会報はPDFファイルにすることは可能でしょうか。もし可能であった場合、今井研のホームページを開設してもよいのですが。現在、所有しているドメイン名のもとで今井研メンバーの認証で閲覧するページを開設してはと思っているのですがいかがでしょうか？会報の郵送・印刷費の削減にもなりますし・・・

さて、今回も申し訳ございませんが懇親会は不参加とさせていただきます。なお、アンケートの回答は、1- 1- 1でお願いします。今後ともよろしくお願ひいたします。

いろいろとご面倒をおかけし、申し訳ございませんでした。よろしくお願ひいたします。以上。

[注] PDF : (portable document format) 異機種のコピーで共同利用できるファイル形式。
アメリカのアドビシステムズが開発。

内田正夫さんより (ハガキ返信から) 2005.7.6

返事が遅くなって申し訳ありません。残念ながら今回も欠席させていただきます。

なお、会の運用費はどうなっているのでしょうか。気になっています(会費の件)

欠席 1 - 1 - 2

4 . 第四回 今井研卒研究生・有志の会 懇親会開会のご挨拶

1) 懇親会開催に先立って 坪井孝光

この1年の間に、会報第5号と6号の二つを発行させていただきました。特に会報第6号は新妻英雄さんがお亡くなりになったことからその追悼特集号も含めての発行となりました。また、今回は懇親会の案内と同時に、今井先生とも相談の上ですが、皆様にアンケートをいたしました。ご本人お一人お一人のご希望をお聞きし、会を運営していく上での本音を伺うという主旨でアンケートをとらせていただきました。その結果につきましては後ほど詳しく説明させていただきます。新妻さんがお亡くなりになったのと、アンケートの結果により9名の方が名簿から外して欲しいというご希望があり、従来の会員数が10名減り、今後は25名の方達でこの会を運営することになりました。そのようなことを踏まえて、第四回懇親会を開催させていただきます。

2) 懇親会開会のご挨拶 今井先生

今日は、第四回目の懇親会となりました。先ほど坪井幹事長から説明がありましたように、アンケートの結果から会員数が少数に絞られた中での最初の懇親会を持つことになったわけです。

前にもお話したことがありましたが、毎号毎号立派な会報を発行している割には、会報に対する反応が少ないように思われます。皆さんの意向を汲みながら続けてきておりますし、あのような高いレベルの会報はなかなか出来ないと思うのですけれども、これは自画自賛でしょうか？

限られた一部の方からは、常に賛辞を頂き坪井さんの労も報われているとは思いますが、昨年の繰り返しになってしまいますが、卒業研究という一年の期間を30年も40年も前に過した人達と、こういう集まりを持続することは実に難しいものだと思っております。

最終的には坪井さんとも相談して皆さんのご意向がどこにあるのか、アンケートで皆さんの率直なご意見をお伺いするということを実行してみたいわけです。

そのようなわけで、会員数35人が25人に減った中での最初の懇親会が持たれることになったわけです。今回の出席者は7名となり、10名を割っての懇親会ではありますが、とにかく少数精鋭で続けて行こう、という坪井さんの強い執念というか、誠意の表れが具体化した形で、とにかく懇親会と会報の発行とはずっと続けていくことになりました。会員が減った中での最初の懇親会を今日持つことになった次第です。

私は今年に入って体調が良くなかったわけですが、鈴木威一さんがかつて娘さんの手術の時に医者を選択を間違えてひどい思いをしたと仰っていましたが、私もこの4月以来そのような体験を致して参りました。そのようなことがありまして、今回の懇親会を開くまでの間に坪井さんともなかなか十分な連絡が取れずにいたわけです。後で、会報のことでちょっと提案したいことがあります。今はこのようなご挨拶だけにしておきます。

少数精鋭の初めての会合ですが、今日は鈴木さんから少し長いお話もお聞きできるとのことですので、期待を致しております。

健康が一番大切です。皆さんも健康に注意して、これからもこの会に出てきていただきたいと思っております。幹事の坪井さん、どうもいろいろと有難うございました。ある意味では「新発足の懇親会」を開くに当り、ご出席の皆様方にも改めてお礼を申し上げ、開会のご挨拶と致します。



5. スピーチ「一期一会」について

鈴木威一 S41年卒

(第四回の懇親会にて会員の鈴木さんより特別スピーチをいただきました)

自分が始めた会社の話は前回お話ししました。それ以外に今井先生からは是非やって欲しいと、ご要望がありましたのでその話をさせて頂きたいと思っております。「一期一会」という会を作りまして、自分が主催してボランティアの会を始めております。今日は ・この会を始めたいきさつと、 ・今どんなことをやっているのかということ、何か絵が出た方がよいかと思ってプロジェクターを使って、 ・最後にその他の色々面白いこともありましたので、その話もしたいと思っております。

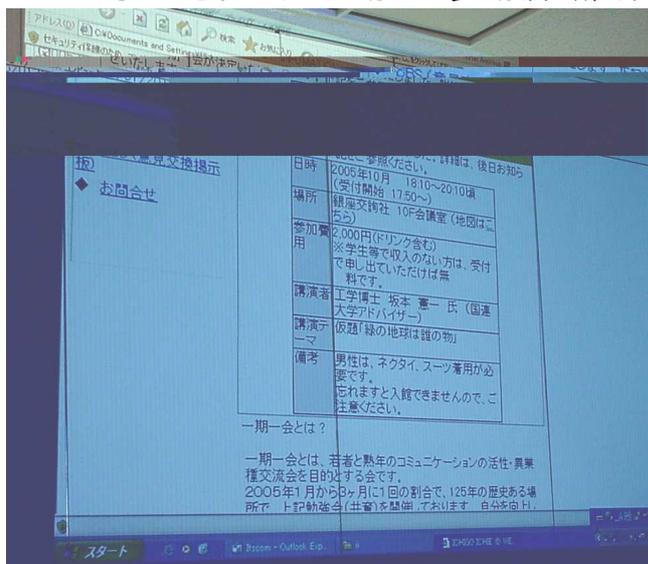
「一期一会」というのはどのような経緯で出来たか、・・・去年の会で、会社を新しく始めまして、やってみるとなかなか難しいことがあるというお話をしました。その度に非常に悩んだんですけど、せっかく退職してやり始めたんだからなんとか頑張ろうと思ってやってきました。しかしそれだけでは今までやってきた仕事と同じだなーと。せっかく60歳になったんだから、毎年何か一つ仕事以外の別の挑戦をやっていきたいと思いつけていました。去年は家内が「お父さんは昔コーラスをやったんだから歌を歌うような、体によい事をやったら」と言われ。それもそうかな、と思って。3カ月ほど練習に通い、恵比寿ガーデンプレイスで、12月24日にベートーベンの第九を歌いました。達成感は有りました。

次の年は何をしようかと秋ぐらいからずーと考えていました。直接の話としては自分の個人的なことになるのですが、下の息子が高校生の頃から、私と息子とうまく話しが出来なくなってきてたんですね。すぐに反抗してしまふんです。なかなかうまく話が出来ない時期が続いたのですが、少し道が開けて、大学に行くようになりましてこの数年やっと少しずつ話ができるようになってきました。しかしまだ真面目な話がきちんとできない。理由は彼等は親父の言うこととか、年寄りの言うことは面白くないと思っている為ではないか、とあっておりました。ある時たまたま息子と話す時、『学校の先生の話は論理ばかりで面白くない。』 本当に社会でやってきた人の本当の話は意外と聞けない。『そういう人の話はテレビで時々聞かすが、結構面白いのがある。学校の先生の話はどっかで聞いてきたような話が多くて、面白くない。』と言うんですね。そこで考えてみると、一方私の友達は殆ど定年退職して、とても素晴らしいことをいろいろやってこられた方達にも拘わらず、なかなかやって来た事を人に話をする機会がない。その上若い人達は、自分の昔話等、全然聞いてくれないのではないかと考えている、と言うことが分かりました。

ところがどうも息子の話からすると、意外と若い人達が、案外そういう人達の、昔こんなことがあって今こうなっている、というような話を本当にそれに関係した人から直接話を聞きたいと思っているらしいと、どうも思われてきたんです。処が一方では我々の仲間が時間が余っている方がいて、その方達の多くは素晴らしいことをやってきた訳です。それでは、そういう人を一同に集める場を作って、話を聞いたり、議論したりしたら、きっと将来日本の役に立つのではないかと思います。ただ大げさなことは出来ないの、私の周りにいる人達だけちょっと集まってもらったらどうか。・・・当時、家族や親戚に将来に悩んでいたたり、リストラの関係者になってしまっていたりという人がいたもんですから、そういう人にも来てもらえる何か場ができたらいいのではないかと思います。そこで来年から数ヶ月に一回ずつ、会合をやって、そこに人を集めて、話し合いをしてみよう、と始めたのです。これがそのきっかけなんです。

会の名前をどうしようかと言ったら、(始めても参加してくれるかを心配していたら)なんと一番下の息子がそれは「一期一会」がいい、と言うのです。我々世代はなんとか「会」と言う名前を付けるんですが、そういうのは付けない、「一期一会」だけでいいんだ、というんですね。その結果この名前は若い人からも評判が良く、今、実は3回まで終わったところです。二回目の終わったころ、これからも出たいという方と、あんまり面白くないという方もいらっしゃいまして、どういう風に参加者を絞って出てきてもらおうかと思っ、悩んでいた時期がありました。今井先生にその件をご相談しましたところ、『まあ、来る人は来るし、こない人はこないし、ということで自然体でやっていくとまた別の展開が開けるのではないか、』という風に言っていただけて、気分的にも楽になりました。これでお金を儲けているわけでも何でもないので、来ていただければいいし、続けられればいいし、又そうでなくてもいい。ということで続けてきたがこの会です。ところがまあまあ結構な人数が集まってくれるようになりました。

どんなことをやっているのかというのが次の所です。これがご案内のページです。



今現在は第4回目の案内を出したところです。10/18(火)銀座交詢社という所でやります。参加費は一応2千円を頂いていますがこの金額は会場費も出ないぐらいです。その上学生など収入の無い方は無料にしています。今回講師としては国連大学の工学博士 坂本憲一先生という方です。東大を出て72~73歳の方。ゼロエミッションという地球環境問題のことを専門にやられています。その方に環境問題のお話をさせていただく予定にしております。

「一期一会」とは何かという定義ですが、若者と女性も含めた幅広い方のコミュニケーションの場、異業種交流を目的とする会です。3ヶ月に一回の割合で勉強会を、125年の歴史ある交詢社で開催しています。自分を向上したいと考えている人、いつか起業したいと考えている人、付き合いが狭くて悩みをかかえている人、色んな話を聞き自分の殻を破りたい人、世の中の役に立ちたい人、親子のコミュニケーションの断絶で悩んでいる人、等を歓迎いたします、ということ打ち出して始めたわけなんです。

交詢社というのは、明治時代初期に当時専門家だけしか集まる場所がなかったところを、異業種の方達の集

まる場所を作ろうということで、福沢諭吉によって作られたのが交詢社という名前のメンバーズクラブなんです。たまたま 10 年程前にメンバーになっていましたので、その場所を使わせていただいています。銀座という場所的な良さと、都心にあるので何処からでも来易いと言うことで、会の開催は平日の夕方というように限定しております。

毎回やる毎に、アンケートをとって、その結果を数量的に表せる所はグラフにして、皆さんからのコメントも全て公表しています、また次回のことで意見があればそれを検討する。今後は出来れば参加者が自分たちで運営して行けるような会にしたいと思っています。「一期一会」のホームページなんですけれど、第1回から3回までの内容をHPに入って頂くと見ることができます。

第1回目の講師は通産省出身の日本人の方なのですが途中から南米に出て行って、通産省を辞めて会社を作られた方です。第2回目の講師は海外の外資の社長をやった方で、現在も住友商事の社外監査役が重役をやっておられます。第3回目が大手広告会社の副社長をやってられた方です。ホームページに載っていますのでご覧ください。講師には、普通のサラリーマンではなく、変わった経歴の方にそういう話をお願いしております。話は皆さんの情報交換のキッカケになるか、自分の殻を破るきっかけになればと思っています。

参加者の中にはすごくやる気が出たという前向きな方も出ています。私が一番うれしかったのは、私の知っている奥さんなんですけれども、だんなが会社のリストラで嫌になっちゃって会社に毎日行くか行かないか迷いながらやっていたんですが、講師の新さんから人間の生き方の話を聞いたら、次の日から急に顔色が良くなって、翌日から生き生きとして会社に行くようになったと、その奥さんが言ってきたんですね。そういう方が一人でも二人でもいるというのは、遣り甲斐のあることをやっているんだな、と思えます。それが今、実際にやっていることです。



第5回目は来年の1月になるんですが、講師は私の友達のイギリス人の男で、今アメリカ資本のタイに本社があって、アメリカ・中国・タイ・日本に拠点を持っている会社があります。その会社の社長で、イギリス人と日本人の生き方の基本的な違いのようなものを話してもらおう予定にしています。日本には7年ほど居ましたのでその時の話してもらおうとお願いしておきました。半年先の話なので、私の体力も財力も足りるかどうかわかりませんが、やれるところまでなんとか続けようと思っています。これは私にとって完全なボランティアワークなので、持ち出しでやっているような状況です。

ここまで続けてきて、その中で非常に大きく良かったと思うことは、全く違う分野の方とお付き合いすることが急激に増えたことです。電機業界にいた者の中では、比較的付き合いが広いと思っていました。しかし全く違った業種の方に接してみて、興味の幅が広がりました。つてを頼って講演していただける方を探してみたり、交詢社の会合に出ていることもその一つかも知れませんが、実に多くの方とお付き合いが広がりました。

これから、電気関係業界で無い方から、お聞きした話の1つを、面白い話の例として、お話してみたいと思います。

後で見て欲しいのは、大手の食品メーカーで、新製品開発をしている方が参加してくれているんですが、何を新製品開発しているかを聞いてびっくりしました。実はお米なんです。お米なんてここ何百年、何千年とやってきたものを新製品開発とは、何を考えているのか、と(品種改良なら解るのですが)、最初は全然訳が分からなくて、いろいろ話を聞かせていただいたところ、今年の始め頃に初めて出来た製品が「発芽胚芽米」というもので、胚芽の部分を生かして、発芽させるのです。そうするとミネラルのようなものが米の中にも生成されて、大変身体に良いものができる。胚芽玄米も良いのですが、玄米は味に癖があるし、消化もよくないといえます。発芽胚芽米というのはお米の理想的なものだそうです。胚芽には元々栄養価の高いものがある。これには精米にポイントがあるそうです。山形でその精米(胚芽を落とさないで精米する)が正に今、始まっています。大変良い健康食品だそうです。これを摂ると肌がきれいになるとか、身体に良いものが沢山含まれている。ものすごい人気があって、先ずは一流料亭からの注文がある。味も美味しく、普通の米よりも、グルタミ

ンのようなものができるので、少し冷めても米の美味しさが落ちない、とのことだそうです。通常の米が10kg 5～8千円が、その倍位の2万円とかの値段で飛ぶように売れて、生産が間に合わないと言う事だそうです。

日本人はあるところにはお金があって、良いものが出るとお金を出す人が沢山いるんだそうです。米というものは日本人にどうしても大切なものなんですよ、素晴らしい新製品開発というのは、もう本当は開発余地が無いと思われるところから生まれてくるのかもしれない。外国から安い米が沢山入ってくるので、なかなか大変だ、という話があります。しかし例えば青森で作っている世界一というリンゴなどは台湾でものすごく人気があって、日本の5倍ぐらいの値段で、これも飛ぶように売れているそうです。日本のハイテクなところでは、家電とか、自動車の事だと思っていますが、農業の分野でも、(バイオに近いのかも知れませんが)本当に身近なところに商売の種はあるんですね。日々のちょっとした中からそういったものが新製品として出て行くと聞きまして、目からうろこの思いでした。一般の方はそれほどご存知ないかと思います。これから米を大々的に、大量に作っていく会社を作るのだそうです。来年から法の改正で農地を使った株式会社が作れるようになるので、このへんも大きく変わっていくのではないかと思います。

私の個人的挑戦、生き方としてやってきて、その間いろいろの方達とお会いして来ました、今回の一期一会の場合には予算が殆んどないものですから、講師の方には交通費だけで講演をやっていただいております。通常では、一講演50万とか100万円かかる講師の方をお願いしている訳です。ある方が鈴木さん、そんなこと(交通費だけのお支払いで講演して頂く事)では続けられっこないよ。そんな乱暴なことをしては駄目だよ、と。色々言われました。心配もしました。しかし、実に面白いと思ったことは、そう言う事ならやっても良いよ、という方が逆に出てくるんですね。お金出せませんと言うと、『貰おうなんて、思っていないよ、』と言ってくれる方が結構いて、次々と講師が決まって行くんですね。これまた全然考えて見なかった事で、人生って、とても素晴らしいな、と。特に経験豊富な方達とお会いして、話を聞く場を設けてみると、とても素晴らしい方が沢山おられるんですね。そういう方の話を聞けるというのはものすごく価値のあるものだし、参加者も40名、50名と増えてきています。学生が10名ぐらいいます。80歳近い方がいますし、参加者の年齢はバラエティに富んでいます。主婦の方も何名かおられます。仕事の話をするわけではなく、どちらかというと人生とか生きがいということを主体に話をしているものですから、色々な方達がおられます。その方たちからの評判は、よかった是非続けてくださいと言う方が殆どで、ありがたいことだと思っております。自分が気が付かなかったことですけれど、むしろ自分が色々なことを学ばしてもらっているな、と。困っている人が少しは元気を出してもらおうと始めた一期一会ですが、何のことはない自分の方が励まされている、と思えました。お聞き戴き、有難うございました。

(今井先生：参加者の90%の方たちがよかったというアンケート結果は他ではあまり見たことが無い。

講演内容に関心のある方が参加していることからか、と思われまます。また、講師の方もボランティアということからか実に熱心に講演してくれています。その熱心さによるのでしょうか。：鈴木)

(「会報掲載」に当たってのコメント：感動的なお話でした。世の中、総てが「最終的には“お金”で評価される」と誤解されがちな昨今です。「一期一会」はまさに「世のため、人のため」の活動です。鈴木さんの高邁なお人柄と卓越した実行力が如実に反映された“つどい”であると思えます。本会の会員がこうした活動をしてられることを、我々は大きな誇りにしたいと思います。今井)

6. 懇親会決定事項

- ・会員に対するアンケート結果に基づき、35名から25名に会員数が減少した
- ・今後は「今井研卒研生・有志の会」と改称し継続開催
- ・幹事は全員留任
- ・会計報告がなされ、2005.6.2 現在 残金 ¥61,554円 を承認。
- ・懇親会の開催時間及び開催曜日の変更等を検討したところ、従来どおりと決定
- ・次回は2006.7.21(金) 16:00～19:00「華迎」にて開催
- ・小野沢賢三さんからご提案の「会報をPDF」化、はお願いする。先ずは会報第6号を依頼。
- ・将来、会報を一冊の本に「合本」場合により図書館などに寄贈する(個人情報の見直しは必要か)